

〔倭名類聚抄十六鳥〕寒

文選云、寒鷗蒸魔

師說寒讀古與之毛乃此間云近古與春

〔箋注倭名類聚抄四魚鳥〕按靈異記、煮鯉寒凝、厨事類記、背書任大臣并大將之日、溫汁之後又居寒汁、鯉味增卽是、文選七啓訓爾古之、樂府詩訓爾古與須毛乃今本寒誤末下總本春作之、按伊呂波字類抄亦作須、則作之恐非是、按古與春卽古々也、須也、謂令寒凍之、今俗呼通古々利、羽族部寒鷗廣本讀古伊太流止比、亦古々衣太流止比也、

〔易林本節用集古食服凝魚〕

〔倭訓菜中編八〕こゝる 万葉集に凝字をよめり、もと寒凝コイコルの義也、靈異記に煮鯉寒凝コイコラスとみゆ、今もこゝり鯉、こゝり鮒などいふめり、

〔四條流庖丁書〕一コヽリノ事、小鮒ヲ可用也、其外ハ何魚成共可用、タレミシニテ煮タルヲバ、コヽリ迄ニテ有ベシ、シリミゾニテ煮タルヲバ、シロニノコヽリト申也、メシノ時コヽリヲ出シテ、晝ノ肴ノ時白煮ノコヽリヲ又出シタリトモ不可難事也、夏コヽリヲコソ當流ノ面目トハ心得申持テ參スル也、五月ノ末六月ニスベシ、

〔料理物語 烹物〕鮒のこゝり たれみそにかげをおとし、ほねのやはらかになり候までに申候て、風ふきにをき候へば、一時の間にこゝり候夏はところてんの草くはへよし、

〔料理物語 海の魚〕たなご こゝり 名吉 こゝり

〔料理物語 川魚〕鯉 こゝり 鮒 こゝり

〔延喜式三十九諸國貢進御贊中宮内膳准此〕句料

大和國吉野御厨所進鳩、從九月至明年四月、年魚鮓火干、從四月至八月、月別上下旬各三擔、但蟠并伊具比魚煮。凝等、隨得加進、

〔鈴鹿家記〕應永元年十二月廿一日癸亥